

天津理工大学国際工商学院訪問

期間 2012年7月1日(日)～7月5日(木)

関西日中平和友好会は、6月7日に天津理工大学国際工商学院と日中ビジネスの覚書を締結しましたが、今回、現地を訪問し、大学内に設置された展示コーナーの確認と今後のビジネス展開に関する細目について討議を行いました。また飛行機が北京経由となるため、北京市にある中国国際友好連絡会とも面談し近況など打合せを行いました。以下、その報告です。

今回の訪中団メンバーは、見本会長、許副会長（天津で合流）安見法人部会長、今西理事、永妻さん（伸栄産業）、高田事務局長の6名で、7月1日関西空港に集合し、青島経由の北京行き東方航空便を使用しました。法人会員である伸栄産業㈱、野田金属工業㈱から展示する商品もハンドキャリーで持参しております。



利用した東方航空便

東方航空便は定刻より少し早く関空を離陸し、一路、北京空港へ向いました。途中、青島空港で一旦降りて、入国審査を終えてから再度、機内に入り19時25分に北京へ向けて飛び立ち、北京首都空港に到着したのは20時30分、その後、北京料理“徐園”の徐光一さんに手配してもらった北京徐園グループの光明飯店の送迎車を使い、22時に到着しました。往路では相変わらずいろんなトラブルがあり大変でしたが、全員が無事、北京に到着したことでした。直行便なら2時間半で北京に着くところ、約6時間近くかかって北京到着でした。



北京 光明飯店

翌日7月2日の北京は快晴で天空は藍色。最高気温36℃。ホテルで朝食後、天津からの迎いのタクシー2台が来たので我々5名はタクシー2台に分乗し、10時40分に北京のホテルを出て目的地である天津に向いました。高速道路を使い片道約2時間。運転手は高速道路でも安全ベルトはせず、私も助手席でしたが安全ベルトはせず座っていました。しばらく新幹線と並行して高速道路を走行しており、新幹線和諧号CRH（7～8輛編成）の走行を4回見ることが出来ました。新幹線は時速280km、北京－天津間は約30分とのことでした。途中のパーキングでトイレ休憩し、天津へ向けて出発。



新幹線“CRH 和諧号”



途中のパーキングで休憩



高速インターゲート



天津市内の高層ビル群

12時頃に天津市内に入りましたが直轄都市である天津も高層ビル（公萬？）の建設が盛んであちこちに見えます。12時40分に宿泊先ホテルの天津理工大学国際交流中心酒店（大学の招待処）に到着しチェックイン後、向かいにある理工大学構内に入りました。中国の大学では今の時期、授業と試験が終わり夏休みに入っているため、学生が少ない。大学の韓さん、蘇さんが対応して頂き構内にある餐丁に入り、我々は昼食をとっていたところ、やっと常熟から許副会長（天津大学客員教授）が合流。これで全員揃ったことになり食事を終えてから大学構内で記念撮影し、一旦招待処へ戻り16時から合同会議があるので事前打合せを行いました。





宿泊先の大学招待所



招待所の看板



天津理工大学のキャンパス



キャンパスで記念撮影

16時から再度大学構内にある国際工商学院に向かった。B棟は新築されていることから他の棟の外観とはかなり違い近代的な概観である。国際工商学院を開設したのは李桂山教授である。八階では何教授が出迎えて頂き、会議室に入りいろいろ貼り付けしてある工商交流内容を見ながら院長の部屋に入り、しばらく相互交流とビジネスの打ち合わせを行った。聞けば来年3月に大学が移転するそうだ。市内の別の場所に大学城なる地域を設けている。天津の4大学が全てこの大学城に集結するとのこと。展示コーナーは一時的にこの場所にするので、日本から持参した商品、カタログを展示コーナーに配置した。



李桂山教授の部屋



展示した商品



展示した商品



展示した商品

その後、何教授から天津市人民对外友好協会と面談し、一緒に食事することになっているとのことで、タクシーで对外友好協会へ向かった。天津電視台の塔がどこからでも見える。かなり大きな公園“水上公園”もある。時間があれば見たい。

我々はこの協会の副会長である劉鳳嵩氏と面談できた。なかなか忙しい人らしい。天津理工大学何教授の老師の関係があり、今回、面談が実現したとのことである。劉副会長は日本語が上手である。連絡担当の韓玉華女史も紹介受けた。今回の天津訪問目的を説明して、天津市の歴史を聞いたら8カ国の疎開地があったことを聞いた。この对外友好協会付近はイギリスの疎開地のため、周囲の建物の外観は中国式ではない。また友好都市は神戸市、新潟市、函館市、北九州市である説明を聞いた、やがて食事を予約しているとのことで協会での面談を一旦終了し、玄関で記念撮影をして我々は夕食会の場所に向かった。夕食会の場所は“唐潮壺品”である。玄関から部屋全てが唐代の装飾、人形、画などかなり豪華な内装である。2階の部屋で約1時間半の食事と歓談を終え、散会し、我々は大学の招待処へ戻りました。



劉副会長との面談



劉鳳嵩副会長



協会が入居している弁公室ビル



レストラン唐潮壺品入口

天津滞在7月3日は晴れ。招待処七階の窓から外を見ると今日も天気よい。しかし天津もかなりスモッグがかかっている。朝、招待処を出て向かいにある天津理工大学内部にある国際工商学院で8時30分からビジネスに関する打合せを行い、中国側の意見と方向性を確認した。

天津理工大学は17学部（情報工学、電子、機械、化学、環境など）があり学生数は2.2万人である。現在の場所には文学部だけが残っており、他の部は既に移転済みで、来年3月に大学城へ移転するとの

こと。今日は李桂山教授も参加し、予め準備していた中国側の対応について双方の意見交換を行なった。今回展示した商材は中国の消費者向けであるが、販売方法は先ず大学生の父兄をターゲットにする。その状況で販売業者を探す。また中国側では輸入となるため、税関のルートを確立、そして原価（総コスト）を計算し、利益も含め価格を決めること、印刷物は学生にデザイン化をさせ、中国人にフィットした文章表現に変えるが翻訳料や印刷費用をどのようにするかも協議を行なった。あわせて企業向け商材の情報交換も行なったが、相変わらず品質がよく、価格が安い日本の商材を求める話があり 20 年前と要求は全く変わっていない。



合同会議風景

その後、李桂山教授の故郷である漢沽：天津市滨海新区へ向かった。天津市内から車で約 1.5 時間かかったと思う。今回の訪問先は“天津滨海新区漢沽新開路にある新区管理ビルであった。聞くと漢沽は中国の三国志に出てくる曹操が生まれた場所であり、その昔は塩田が盛んな地域であったことがわかった。人口 20 万人の農村に中国政府が開発区をつくり経済基盤を広げることで開発を始めたとのこと。我々が訪問したことで関係先の中国企業の董事長や総経理、管理事務所の責任者など 10 名が大会議室に集まって歓迎してくれた。建物の内装も、これまで私が見た中国式の内装ではなく、かなり近代的な内装であり大変綺麗である。



天津滨海新区のビル



左：董文双書記 右：李教授



商品に関する質問風景



同 左

会場では、董文双書記から漢沽について説明があり、各自の紹介を行い、日本商品についての意見を聞き、商品に関する質問が個別に行なわれた。参加した中国企業の意見は、やはり日本の技術と管理方式を取り入れたいことであった。その後、昼食会が陽光飯店（参加者の誠実電気有限公司庄董事長が経営するホテル）であった。このホテルも最近開業したようで新しい。

大きなテーブルに料理がどんどん出されワイン・白酒でお互いに酒を酌み交わし、乾杯の繰り返して交流が更に深まった。



昼食会会場



美人ママの横で感激の見本会長



今西社長も感激



中央は呂 書記

昼食会も散会となり、我々は天津市内に戻るかと思ったら何と漢沽第一中学校へ入って行った。ここで何をするのかと思ったら地元の父兄による音楽会で民族音楽を鑑賞することになった。中に入ると“双迎理工大学と日本友人演唱會”と配布された紙を貰った。会場のディスプレイには“河西街留園里社区 慰問日本友人文芸演出”と書いてある。演奏が開始され、二胡などの楽器演奏、男女二重奏、独唱があり李桂山教授が“北国の春”を歌い、その後同行した永妻さんが指名され、何故か英語で“マイウェイ”を熱唱し会場から大喝采を受けました。その後許副会長から御礼の挨拶をし、最後に全員で記念撮影し、第一中学を後にしました。



中学校の標識



漢沽の美女軍団から熱烈的な歓迎を受けました。

最後に全員で記念撮影

その後、庄董事長が経営する石の展示会場へ行き、しばし石の鑑賞である。ガラス知能温室と表示されている。中に入りお茶が出てきたが、胡瓜（中国語では黄瓜）が1本そのまま出てきた。皆は、かぶりついているので私も真似をしてかぶりついた。まるでキリギリスである。展示会場では中国の各地から集めたのだろう。かなり多くの石が展示してある。鍾乳洞にある石、水晶など何千点であろうか。やっと我々は天津市内のホテルに戻りしばしの休憩をとった。許副会長の帰りを待ち、一緒にホテル近くにある飯店で食事。ホテルに戻りダウンであった。疲れましたね。

翌日7月4日は、早朝3時頃から雷がなっている（中国語で、打雷了）。やはり今日は雨か？5時半頃に外を見ると雨はない。曇りである。今日は天津から北京へ戻る日である。朝、許副会長と永妻さんが近くの店で中国式朝飯（ナンのような食べ物と中に餡が入った揚げた饅頭）を買ってきてくれ、みんなで食べ、宿泊先のチェックアウト。天津理工大学の車が到着し、理工大学の何教授、蘇さんと一緒に天津市内で日本のマルマス製精米機を買ってくれた店へ向かった。その店の名前は“海宇康緑農庄”。店内にはお米、野菜などを展示、しかもおもしろいのは、奥にある水槽に大きな“どじょう”が数十匹泳いでいる。お米と“どじょう”の関係がわからない。最近、開業したようで店内の内装は綺麗である。電源の問題で試験運転が出来ず精米機の使い方説明だけで終えて、この店で北京行きメンバーと天津のメンバーが分かれた。



店舗 海宇康緑農庄

我々は理工大学が用意してくれた女性の運転する三菱デリカワゴン車に乗り、高速道路を使って北京へ向かった。約1時間走行で運転手にトイレ休憩をお願いして次のパーキングで止まった。パーキングといっても高速交通公安がある休憩所。北京へ向かう車は全てこのパーキングで迂回しなければならない。停車している他の車を見ると通行許可証を取り、運転席前に掲示している。思い出したのは外地ナンバーの車が北京市内に入るとき、許可証が必要であることだった。パーキングでは高速道路で事故を起こした車が4台ほど展示されている。中にはホンダのエンジンを搭載した事故車もあった。



展示されている事故車両

少し休憩したあと、北京へ向かい宿泊先の光明飯店に午後1時過ぎに到着。約2時間の道のりだった。女性の運転手にお礼を言って別れ、我々はホテルでチェックインし昼食をとり、休憩。午後4時に中国国際友好連絡会の車を待つことにした。

中国国際友好連絡会の車が来たので、我々4名は市内海淀区にある事務所へ向かった。事務所では邵部長が出迎えてくれ、久しぶりの対面であった。事務所の会議室で邵部長、亜州部岑副主任、馬副主任、楊女史と面談しながら訪問目的や状況などを確認しあった。刑部長は、昇進し総務部主任となり一室を確保している。邵部長にお願いし写真を撮らせてもらった。

その後、近くにある飯店で夕食をご馳走になった。さすが中央政府直結の団体である。日本の動きや状況を明確に把握している組織団体である。日本政府の動きや日本経済、大地震の影響、日中関係の変化などを話し合い、久しぶりに格式高い話であった。



中国国際友好聯絡会看板



聯絡会メンバーとの面談



聯絡会 邵部長



夕食の招待を受ける

やっと今日7月5日に帰国する日が来た。朝7時にホテルを出るため、我々は朝6時15分から朝食をとり、チェックアウトである。料金精算で揉めたが7時20分にホテルが用意したワゴン車に急いで乗り、我々は一路、北京空港へ向った。予定通り約30分で北京首都空港に到着した。運転手に礼を言って空港ビル内に入り、東方航空便国際線受付チェックインカウンターで搭乗手続きを行ったあと。喫茶で休憩をした後に50番検査場へ入り待合室で東方航空便を待った。帰国時に利用する東方航空便は、北京へ到着したときと同じでバスで飛行機まで行った。機内は満席である。出発時刻の9時55分になっても飛行機は動かない。管制塔からの許可が出ないのだろう。動き始めたのは10時40分、約45分の遅延でやっと起飛了。



北京首都空港玄関



チェックインカウンターで



東方航空の地上係員



東方航空便へ乗込む乗客

飛行機は上空に入り雲海スレスレに飛行しているためか揺れて、水だけ配り、機内食が出なかった。やがて煙台空港に到着し、ここで出国手続きを行った。飛行機はかなり遅れて煙台に到着した。空港ロビーで約20分待った後に機内に再度入り、やっと関空に戻ると一安心。水平飛行に入ったが、まだ多少揺れている。もしかしてまた機内食が出ないのでは？と心配になった。しばらくして揺れもおさまり、機内食が出て来た。ご飯が硬くまずい。半分残した。青島ビールのおかわりをして、関空到着まで時間を過した。



東方航空便から見た雲海

東方航空便は定刻15時10分より20分遅れで無事、関西空港に到着した。再入国手続き後の税関とのやり取りでは、税関係官がパスポートを見て“煙台からですか？”との質問があったので“北京だが遠回りし煙台で出国手続きをさせられた”と言ったら笑って“MU便ですか？”と。税関係官は東方航空便の経路のことを知っているようだ。

なにわともあれ、今回の北京・天津訪中組が全員、無事に帰国できたことが幸いであった。天津理工大国際工商学院李桂山教授、何教授他の方々には、大変お世話になりました。また北京の中国国際友好聯絡会の邵部長他幹部の方々にもお世話になりました。御礼を申し上げます。

(2012.07.06 事務局)